

児童一人一人の問題解決能力を育てる総合的な学習の展開
～ 体験活動への支援と評価の工夫を通して ～

日立市立豊浦小学校

1 はじめに

本校では、総合的な学習の時間を「とよっ子タイム」と称して各学年で学習を展開している。とよっ子タイムでは、次のことを目標にしている。

- ・ 豊浦の学習素材を生かし、自ら課題を発見し、進んで考え主体的に判断し、よりよく問題を解決できる資質や能力を育成する。
 - ・ 学び方やものの見方を身に付け、問題解決に主体的かつ創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えたり、進んで地域に関わろうとしたりする資質を育む。
- また、以下が目指す子ども像である。

- ・ 体験的な活動や問題解決的な学習を通して、主体的に追究しようとする子
- ・ 自分の考えをまとめたり、進んで発表し伝えようとする子
- ・ 自ら考え、人と関わり、地域の自然や文化などを大切にする子

ここで紹介する実践事例は、5学年の『わが町「とようら」やさしさ発見』という福祉体験活動である。

2 総合的な学習の時間（とよっ子タイム）活動案（第5学年）

（1）単 元 『わが町「とようら」やさしさ発見！』 ～福祉について学ぼう～

（2）目 標

- ① 福祉について考えていく活動を通して、自分たちにできることは何かを考え、よりよい活動となるように工夫しながら取り組もうとする。

（活動への関心・意欲・態度）

- ② 課題に対する自分の意見や思いをもち、どうすれば相手の立場に立ったよりよい活動になるかを工夫、改善しながら学習を進めることができる。 （思考力）

- ③ 自分たちが調べたことや取り組みたいことについてわかりやすくまとめるとともに、相手にも効果的に伝えることができる。 （表現力）

- ④ 自分たちが計画した活動を、相手の立場を考えながら、よりよく判断し、改善し、実践するとともに、地域社会に積極的に関わり、自分の思いを実践することができる。 （実践力）

（3）テーマについて

3学年・4学年で自分たちの住んでいる地域の環境に関わりをもち、自然の大切さを感じたり、自分でできる方法で自然環境を守ろうと行動したりした。また、省エネ・省資源という視点で自分たちの生活を見直してきた。

そこで、今年度は、「福祉」に視点をあてた学習を展開することにより、地域の「人」とのふれあいを大切にしていきたいと考えた。

〈事前調査〉 H28. 10. 25 29名調べ

お年寄りと同居をしていますか？	はい 2名 いいえ 27名
お年寄りと同居はしていないが、近くにすんでいますか？	はい 16名 いいえ 11名
自分たちの住んでいる豊浦は住みよいですか？	はい 23名 いいえ 6名
自分たちの住んでいる豊浦は住みにくいと思う理由は？	坂が多い 4名 交通の便が悪い 2名
お年寄りにとっては、豊浦は住みよいと思いますか？	はい 20名 いいえ 9名
お年寄りにとって、豊浦は住みにくい理由は？	坂が多い 5名 交通の便が悪い 2名 歩道が少ない 1名 交通量が多い 1名
障害のある方と接する機会はありますか？	はい 2名 いいえ 27名

児童の実態として、高齢者との同居は少ないが、身近に身内の高齢者が住んでおり、高齢者と生活したり触れあったりすることがある児童が18人いる。児童は、今後の福祉的課題としての少子高齢社会の担い手である。そのためにも自分に何ができるか考えることは大切な課題である。また、障害者との交流経験はほとんどなく障害者への理解は、テレビや本等からの断片的な理解にとどまっている。

そこで、障害者の生活についての疑似体験や障害者との交流を進めていくことで、共感的な理解ができるように場を設定した。このことで児童たちに、高齢者や障害者と共によりよく生きていくことの大切さに気付かせることで、メインテーマに迫ることができる考えた。

(4) 単元計画 (70時間取扱い)

月	学 習 活 動 ・ 内 容	・ 支 援 ○ 評 価
4	1 わが町『とようら』のオリエンテーション ・福祉についてのマインドマップを作成する。	・メインテーマが理解できるように一部昨年度の取り組みを紹介しながら説明する。
5	・これからの活動の概要を知る。	
6	2 「バリアフリーの町づくり」の計画を立てよう。	
7	・高齢者や障害のある方たちの生活について知る。	・高齢者や障害者の疑似体験では、表面的な体験に陥らないように支援する。 ・高齢者や障害者の介助をしたことで、高齢者や障害者の心情を共感的な理解ができるように支援する。
10	・高齢者や障害のある方たちの生活の中での不便を自分たちも疑似体験してみる。(本時)	
11	3 疑似体験をして感じたことについてまとめる。 ・自分の感じたことを友達に分かりやすく伝え合うようまとめる。 ・調べたことをもとに、発表し合う。	
1	4 高齢者や障害者の方たちと交流をはかり、住みやすい町づくりを考えよう。 ・学区内の福祉施設や生活に障害となっていることを調べる。	○自分の課題にそって調べたことを、互いに伝え合う中で、高齢者や障害者の心情を共感的に理解できたか。 (発表、ワークシート)

2	5 学習のまとめをする。 ・高齢者や障害者の方たちと交流をする。 ・調べたことをもとに、発表し合う。 ・これからの自分たちが何をすべきかについて、 町づくりに向けた提案をする。	○自分の課題にそって調べたり、体験したりすることを、分かりやすくまとめ、発表することができたか。 (発表、ワークシート)
---	--	---

(5) 本時の活動

① ねらい

- ・疑似体験で体験したことをもとに、障害者の苦労や介助の大変さを理解できる。

② 準備・資料

- ア 気付きカード（ワークシートから） イ ワークシート
ウ 学習課題カード（提示用）

③ 展 開

主な活動内容と予想される児童の反応（ ・ 支援 ○ 評価 ）	
1	本時の学習活動について確かめる。 高齢者や障害のある方たちの生活を体験して気付いたことをまとめよう。 2 グループ毎に4つの福祉体験活動を行う。 (1) 高齢者体験 (2) 車いす体験 (3) アイマスク体験 (4) 点字体験 3 高齢者や障害者の疑似体験をして気付いたことについて、ワークシートに記入する。 (1) 自分が疑似体験したことについてワークシートにまとめる。 (2) 自分の考えをグループ内で伝え合う。 (3) 介助の仕方の大変さについて学ぶ。 体験で感じたことをワークシートにまとめよう。 《高齢者体験》 活動写真 ・ 高齢者体験での気付き ・ 高齢者体験を介助しての気付き 《車いす体験》 活動写真 ・ 車いす体験での気付き ・ 車いす体験を介助しての気付き 《アイマスク体験》 活動写真 ・ 視覚障害者体験での気付き ・ 視覚障害者体験を介助しての気付き 《点字体験》 活動写真 ・ 聴覚障害者体験での気付き ・ 聴覚障害者体験を介助しての気付き

- 疑似体験で気付いたことを分かりやすくまとめることができたか。

(発表・カード・ワークシート)

4 本時の学習を振り返り、次時の活動について確認する。

- 体験したことをもとに意見交換して、今後のリーフレット作りのヒントを得られたか。

(発表・振り返りカード)

3 児童の学びの様子

(1) 高齢者体験



(2) アイマスク体験



(3) 車いす体験



4 成果と課題

- インターネットを活用して、福祉について各自が目標に沿って調べ学習を進めることによって、個人目標がより具体的になった。
- 疑似体験活動を通して、障害者の苦労を一部理解することができ、その介助の仕方の大変さについても理解を深めることができた。
- 体験したことをリーフレット等にまとめることができた。
- 今後、地域の介護施設等を訪問して、高齢者との交流を深めていきたい。
- これから自分たちがすべきことや、まちづくりに向けた提案をまとめていきたい。